



広報 木村 真里子さん

「武」という字は「<sup>ほこ</sup>戈を止める」と書くように、本来、利己的な思いを抑えて、争いを鎮めるという意味があります。今、武道の世界でも勝ち負けが重視される風潮がありますが、力で相手をねじ伏せても、それは真の勝ちと言えないのではないのでしょうか。以前、私が海外の道場で稽古していたとき、剣道のヨーロッパチャンピオンは「剣道が強いことではなく、剣道で培った人間性を評価してほしい」と言いました。それは誰かに教えられるのではなく、鍛錬を続けているうちに感じたり気づいたりすることなのかもしれません。私たちはさまざまな武道具の提供を通して、**従来の勝ち負けとは違った価値観を伝えていきたい**と思います。武道の精神を知ることが平和につながるのだと、そう信じています。



# 武道で伝える 日本の このころ

## こころを込めて 我が社の おもてなし

### とう ざん とう 株式会社 東山堂

代表者 / 木村 隆彦  
住 所 / 京都市上京区中立売通日暮東入新白水丸町451-1  
TEL / 075-432-1600  
URL / <http://tozando.net/>

暖簾をくぐると、職人技が光る武道具の美しさに目を見張ります。東山堂のお客様の多くは外国人。代表の木村隆彦さんがインターネット等のない30年以上前、海外の剣道家が防具を簡単に入手できない姿を目にしたことで、日本の剣道の環境が恵まれていることに気付かされたと言います。「何か役に立てることをしたい」と、修理道具片手に世界中の道場を回ったのが創業のきっかけです。

現在ではインターネットでの受注が増えています。ですが、「創業当初のおもてなしの思いは変わっていません」と木村真里子さん。海外のお客様は体の大きい人も多く、市販品ではサイズが合わないことがあります。東山堂では熟練の職人が、一人ひとりの体型や体格をメール等でお伺いし、例えば面をかぶったときにしつかりと相手が見えるよう物見（面を付けたときに視界となる部分）を調整するなど、オーダーメイドできめ細かに対応。心のこもったサービスを心がけています。

従業員の多くが剣道経験者であることから、「私たちの知識や人脈を生かした取り組みができないか」と木村さん。年に一度、左京区の武徳殿に国内外のお客様を招いて、稽古で共に汗を流す錬成会を開催。「世界で活躍する選手の指導など、普段なかなか経験できない充実した内容が好評で、参加した皆さんにたいへん喜んでもらっています」

袴を身に着け、竹刀を手にすれば、凛と気持ち引き締まります。それはきっと、日本人が養ってきた心意気が武道に込められているからでしょう。